



# 切れ目のない支援で子どもたちを支える



- 子どもの特性に合った支援のために
- 問題行動の未然防止・早期解決のために
- 卒業後の継続した支援のために

複雑化・多様化、低年齢化する子どもの諸問題に対して、関係機関と連携した切れ目のない支援の必要性は高まっています。

## ●「困った子」から「困っている子」への見方の転換を

### ①課題の把握

最近休みがちだよな～

A君、授業中落ち着かないな～

【子ども】

万引きや暴力等の問題行動が続いているわねえ～

もしかしたら、次のような背景があるかもしれません

発達障害	児童虐待	性犯罪被害
いじめ	非行	不登校
震災関係の悩み		

### ②情報の収集と整理（アセスメント）

#### 学校生活

- 学習の状況
  - ・習熟度や集中力
  - ・成績の急激な落ち込み
  - ・学習用具の準備状況
- 保健室の利用状況
  - ・利用頻度、疾病、ケガ
- 登下校の様子
- 衛生状況
  - ・頭髪、服装、手足、口腔内等
- 給食の食べ方
- 身体的な発達
- 性への関心、嫌悪
- スクールカウンセラーの利用など

#### 友人（対人）関係

- 集団との関わり(孤立)
- 周囲への乱暴な行動
- トラブルの増加
- 表情
- 嘘を繰り返す
- からかう(われる)
- 異性への過度な関心、拒否感
- 金銭の貸し借り など

#### 家庭環境

- 親子、兄弟関係
- 両親の夫婦関係
- 家族構成の変化
- 経済状況
- 震災での被害状況 など

#### 本人の特性

- 強いこだわりと衝動性
- 感覚の過敏、鈍感な反応
- 既往歴や諸検査の結果 など

情報をもとに総合的・多面的に判断し、潜在的な課題を見立てること（アセスメント）をしていきます。



右のページへ

### ●効果的な連携を進めるために 関係機関につなぐ前に…

- ①校内担当者を中心とした組織体制を確立し、連携機関との窓口を一本化します。
- ②校内のケース会議等では、気になる子が「なぜ、そのような行動をとるのか」「何に困り感を抱いているのか」「本人・家庭はどうしたいのか」等情報を収集し、表面的な課題から潜在的な課題を見立てていくこと（アセスメント）が大切です。  
【情報収集の視点】：学校生活・学力・家庭環境・発達・心理・疾病・被災状況・友人関係、諸検査の結果など
- ③解決に向けた目標の設定と学校の役割、他機関と連携したい目的（内容）を整理し、具体的な手立てを考えていくこと（プランニング）が大切です。短期的・中長期的な見通し（目標）を持って臨みましょう。

\* SC（スクールカウンセラー）、SSW（スクールソーシャルワーカー）と十分に協議しましょう。